

# 老舗のヒミツ

近代養蜂業発祥の地である岐阜で、百二十年以上にわたって養蜂業界の総合商社として、業界振興の中心的な役割を担ってきた。九代目の中村正社長(六三)は、「自然が相手なので、急に事業が大きくなったりもつたりはできない」と経営の堅実さを重視する。

蜂の巣箱や、顔を網で覆った作業着といった資材や道具など約三百種類を販売、その中には、女王蜂やミツバチも含まれる。また、養蜂家が採取したハチミツを買い取って、関連製品の製造販売も行い、ミツバチが集める自然の恵みを消費者に送り届けてもいる。

二百年前の創業時は材木商だったが、取り扱う秋田杉が巣箱に最適だったことから養蜂事業に転換。テレビもラジオもない時代に、「養蜂いろは新聞」(一九一五年発刊)で全国に情報を発信。記事は全国の顧客から信頼を集め、取引先は現

## 秋田屋本店



# 安心安全が最優先

在一万二千人に上る。されたのも、岐阜が養蜂の中心地となる一因だった。しかし最近では、稲作の異変も。織細で弱い鉄の貨車で巣箱を運んだため、日本のほぼ真ん中にある岐阜市に全国の生産者が集った。学肥料に取って代わらなくなった。中村社長は「自然に近い形の農業で、業界は大打撃を受け、養蜂家は復活させて、ミツバチにも人間にも安心安全の国内生産量は全体の5%程度になってしまった」と中村社長。環太平洋連携協定(TPP)の行方についても食品を扱う以上、消費者の安心安全が最優先。研究、品質保証には専属の人員を配置しない」と社内で徹底している。将来、プロポリスやローヤルゼリーが免疫力を高めたり、脳を活性化したりする効果があることを実証して、がんや認知症の治療に役立てたいと研究を続けている。

(福沢和義)



①近代養蜂を語る中村正社長(岐阜市加納城南通) ②さまざまな花の蜜から作られたハチミツ(岐阜市加納富士町)

### 会社概要

秋田屋本店 1804(文化元)年、材木商として創業。87年に養蜂部を設置。1931年に合資会社、61年に株式会社設立。県内に5カ所の工場を持つほか、出荷用のミツバチを育てるための養蜂場も4カ所ある。従業員はパートを含め260人。2014年8月期の売上高は前年同期比5%増の63億円を見込む。岐阜市加納富士町1丁目1。